

全国アマモサミット2018 in 阪南



開催報告書



箱作公園
大阪湾を挟んで淡路島

男里川河口、
関西国際空港

www.hannannoumi.com



アマモ太郎
(下荘小学校 宮内権介くんデザイン)

阪南のアマモ場



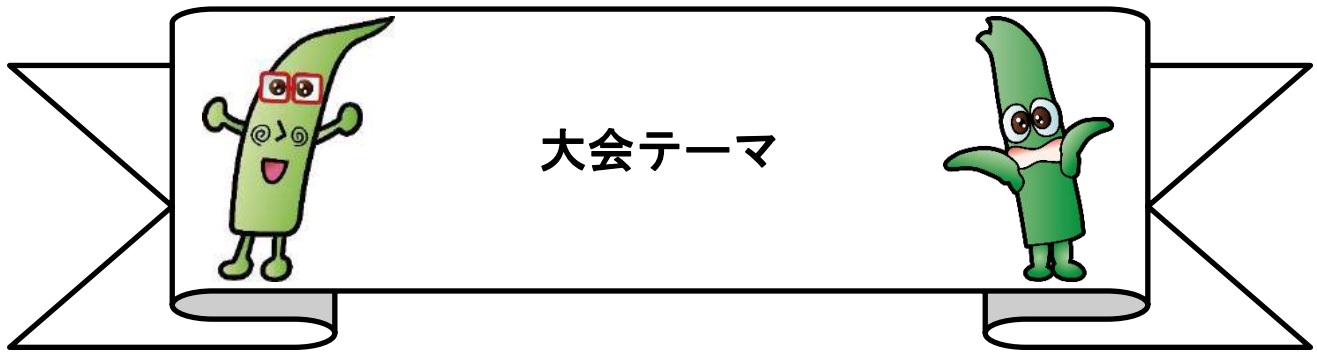
アマモン

ここにある魚庭(なにわ)の海 きづこら・うごこら・つなごら

～5つのヒント・50,000の約束～

11/2(FRI).3(SAT).4(SUN) 会場：阪南市立サラダホール

全国アマモサミットとは、「アマモ」や「アマモ場」を象徴的なキーワードとして、海の自然再生・保全を目指している全国的な大会です。



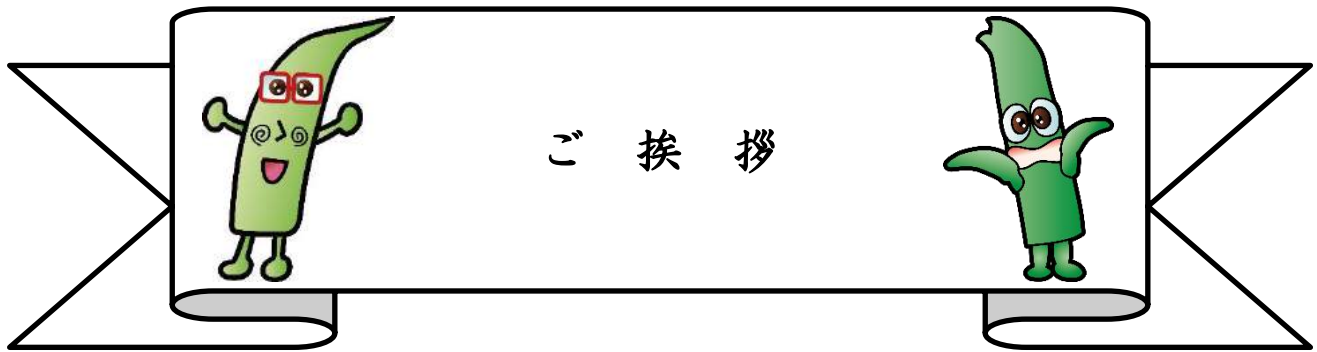
ここにある魚庭(なにわ)の海 きづこら・うごこら・つなごら
～5つのヒント・50,000の約束～

全国アマモサミットとは、「アマモ」や「アマモ場」を象徴的なキーワードとして、
海の自然再生・保全を目指している大会です。
平成20(2008)年の横浜大会以来、全国各地の沿岸域が抱える環境問題をテーマに、
毎年地域の事例発表や意見交換の場として、全国各地で開催され、
平成29(2017)年は、三重県志摩市で開催されました。

第11回となる開催地「阪南」。
ここには、大阪都市圏というロケーションの中で、
人々の暮らしのすぐそば・程よい近さに森・里・川・海があり、
人々はこれらの豊かさや恵みを日々感じながら、暮らしています。
この豊かさや恵みは、あたりまえにあるのではなく、
ここに住む人々や活動する人々が、守り、育ててきたものです。

私たちは、この大会を通じ、
これまで、守り・育ててきた、豊かさや恵みへの〔きづき〕、
今、行われていることをわかり〔うごく〕、
そして、全国各地の取組みや、シンポジウムの成果を、聞き、受けて、
これからも、豊かさや恵みを、守り・育てていく・様々な人々や世代のあいだを〔つなぐ〕
そのために、このサミットに参画する皆さんで、
「それぞれができること」「みんなでつくっていくこと」
それを「皆さんで話し合い、決めていく」
そのような大会を目指します。





『ここにある魚庭（なにわ）の海 きづこら・うごこら・つなごら ～5つのヒント・50,000の約束～』を大会テーマとして開催しました「全国アマモサミット 2018in 阪南」。

大会期間中、11月2日から4日の3日間で、地元の皆さんを始め全国のアマモ・海を愛する皆さん、延べ1,450名の方々がご来場されました。

大会を通じ、ご参画いただいた皆様方、また、ご来場いただいた皆さん全てで、この地の豊かさ・恵みを知り、感じることができ、そして、それを守り・育て・つくり・繋ぐため、一人ひとりに何ができるか、どうすればいいか、それを考え、話しあうことができたものと考えております。

ここに、大会報告として本書を作成し、皆様方からいただいたご尽力・ご高配に感謝申し上げますとともに、このサミットで得たものを活かし、大会宣言に示された「‘きづき’を忘れず、‘うごく’を育て、‘つなぐ’をつくっていく」ことに、今後とも一層のご支援・ご協力をお願い申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。

平成30年12月吉日

全国アマモサミット 2018in 阪南実行委員会
実行委員長 阪南市商工会会長 奥野 英俊

“全国アマモサミット 2018in 阪南” 大会宣言

ここ、大阪・阪南には、人々の暮らしのすぐそば・程よい近さに森里川海があります。そして人々は、これらの豊かさや恵みを日々感じながら、暮らしています。

それは例えば、古くは土佐日記に詠われているように、また、今も市の歌や校歌にも、森里川海が歌われていることにみることができます。そこには、はだしで行ける浜があり、おいしい魚や多様な生き物がいます。阪南の地先には豊かなアマモ場が広がっています。研究者は、そこに守るべき多様性と可能性そして価値を見出しています。

また、男里川・山中川など川の上流・中流・河口干潟には多様な生き物が棲んでいます。和泉山脈の伏流水が海岸近くに湧き出る清水大師、せんなん里海公園なども、森里川海のつながり、また、森里川海と人とのつながりを感じることができるものです。

大阪湾の環境は改変され、自然が失われてきました。ここ阪南にある豊かさや恵みは、あたりまえにあるのではなく、自然と共に営みを紡いできた人々が様々な活動を通じ、守り、育ててきたものです。

それは例えば、大阪府下唯一の、のり加工業などの漁業や水産加工業、また、この地の成り立ちである14村をルーツとする、ものづくりへの心を尊重し、技を継承する、「阪南ブランド14匠」などに、その姿をみつけることができます。

子どもたち若者たちは、アマモや海の環境を守るための5つのヒントを考えました。自分たちが行動することの面白さや責任を感じ、大切なことを伝えていきたいと思っています。

環境を守り、伝統を引き継ぎ、地域の振興を図るために、今、皆が動き出さなければなりません。

私たちは、この大会を通じ、様々な人々の話を聴き、感じることができました。

私たちは、私たちに何ができるか、どうすればいいか。それを考え、話しました。

今あるものを守ること、今の動きを育てること、新しくつくること。それらは一朝一夕にできることではなく、課題ややるべきことは五万とあります。

それでも、私たちには、5つのヒントがあります。私たちには、50,000の家族がいます。そして、それを応援し、支えてくださる全国の仲間がいます。

私たちは、平成時代有終の秋、ここ、阪南の地での“全国アマモサミット 2018 in 阪南”の開催を契機として、

1. 一人ひとは、この地の豊かさや恵みの‘守り隊’である自覚を持って、一人ひとりが、‘きづこら・うごこら・つなごら’を合言葉に、この地の豊かさや恵みを伝える・広めていく
1. 子どもたちは、みんなで阪南の森里川海で遊び、支えてくれる地域の人々や友達・先輩・後輩が共に体験・経験したことからさらに学びを深め、大人になっても忘れず、できることを実行していく
1. 地域で暮らし、働く全ての大人たちは、子どもたちが体験・経験できるように、その手助けを続けていく
1. 漁業者は営みの主体者として、おいしい魚介を漁（すなど）り、ノリ・ワカメ・コンブなどを育て、海の幸を食べる文化を支えていく
1. 産業界はこの地のブランド力を高める者として、それぞれの活動を発展させ、伝統の技術を次の世代に継承していく
1. 研究者は、アマモ場の再生を進める研究とともに、それとカキの養殖を両立させる手法など、環境保全と地域振興を共存させる道筋について検討を進めていく
1. 行政は、様々な人々がみんなで動けるように、下支えや仕組みづくりを考え、これからも森里川海をまちづくりの根幹としていく

ことを、約束しました。

この地をまた皆さんに訪れていただいたとき、「あのときの約束は、こういうことだったんだな。」と皆さんに感じていただけるよう、わたしたちは、‘きづき’を忘れず、‘うごく’を育て、‘つなぐ’をつくっていきます。

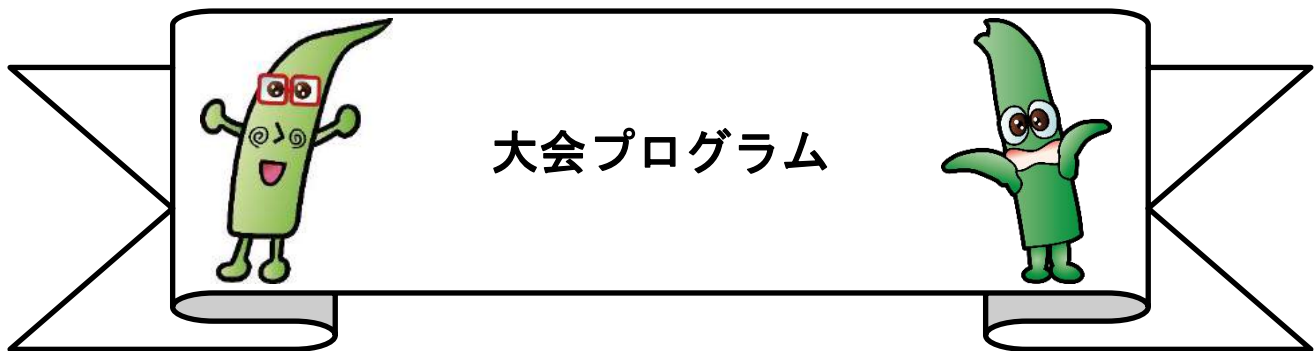


平成 30(2018)年 11 月 4 日

全国アマモサミット 2018in 阪南 参加者一同

全国アマモサミット 2018in 阪南 実行委員会一同

大阪・阪南の地にて



11月2日(金) 会場：阪南市立サラダホール小ホール

**第35回沿岸環境関連学会連絡協議会ジョイントシンポジウム
「大阪湾における藻場再生の意義と可能性」**

司会：フリーアナウンサー 梨田 いづみ さん

9:30 開会

開会あいさつ 全国アマモサミット 2018in 阪南実行委員会副委員長 大塚 耕司
沿岸環境関連学会 代表 今井 一郎 氏

趣旨説明 全国アマモサミット 2018in 阪南実行委員会副委員長 岩井 克巳
導入

『第32回沿岸環境関連学会連絡協議会ジョイント・シンポジウムの議論を踏まえて』
NPO 法人里海づくり研究会議 理事・事務局長 田中 丈裕 氏

10:05 第1部 藻場の持つ機能や可能性、将来性

『アマモ場を含めた藻場の機能と役割』

国立研究開発法人水産研究・教育機構

瀬戸内海区水産研究所生産環境部藻場生産グループ 堀 正和 氏

『瀬戸内海のアマモ場の特性

～多様性とその意義，および保全・再生にむけて～』

国立研究開発法人水産研究・教育機構

瀬戸内海区水産研究所生産環境部藻場生産グループ 吉田 吾郎 氏

『藻場とアマモ場による赤潮及び貝毒プランクトンの抑制効果』

滋賀県立琵琶湖博物館 特別研究員、北海道大学名誉教授 今井 一郎 氏

(11:35~12:30 休憩)

『干潟の生態系サービスの“見える化”』

国土交通省国土技術政策総合研究所 沿岸海洋・防災研究部
海洋環境・危機管理研究室長 岡田 知也 氏

『浅海生態系における CO₂ 吸収量の全国推計』

国立研究開発法人海上・港湾・航空技術研究所 港湾空港技術研究所
沿岸環境教育領域グループ長 桑江 朝比呂 氏

『沿岸域総合管理からブルーエコノミーへ』

NPO 法人海辺つくり研究会 理事 古川 恵太 氏

14:15 第2部 藻場とアマモ場を取り巻く施策と再生技術の現状

『水産庁における藻場の保全・創造の取組』

水産庁漁港漁場整備部整備課 課長補佐 不動 雅之 氏

『藻場・干潟の分布状況調査について』

環境省水・大気環境局水環境課閉鎖性海域対策室 課長補佐 坂口 隆 氏

『播種シート工法によるアマモ場造成』

東洋建設株式会社土木事業本部

総合技術研究所鳴尾研究所 水域環境研究室長 金澤 剛 氏

『鉄鋼スラグによる藻場造成』

新日鐵住金株式会社スラグ・セメント事業推進部市場開拓室 木曾 英滋 氏

15:30 第3部 大阪湾の現状と地域行政の取組み

『大阪湾水産環境整備マスタープランについて』

大阪府環境農林水産部水産課

企画・豊かな海づくり推進グループ 主査 笹島 祐史 氏

『大阪湾再生の取組み』

国土交通省近畿地方整備局企画部 技術企画官 中藤 智徳 氏

『大阪湾における藻場再生・環境再生の現状』

一般社団法人生態系工学研究会 吉村 直孝 氏

16:30 総合討論

～大阪湾における藻場再生の意義と可能性～

コーディネーター

大阪府立大学大学院人間社会システム科学研究科 教授 大塚 耕司 氏

17:30 閉会

閉会あいさつ 日本水産学会水産環境保全委員会 委員長 門谷 茂 氏

全国アマモサミット

司会：関西テレビアナウンサー 谷元 星奈 さん

9:20 オープニングセレモニー

『ウェルカムコーラス』

阪南市立東鳥取小学校東鳥合唱団の皆さん

9:30 開会式

開会宣言 全国アマモサミット 2018in 阪南実行委員長 奥野 英俊

大会長あいさつ 阪南市長 水野 謙二

来賓紹介

来賓祝辞 大阪府知事 松井 一郎 氏(代読:大阪府副知事 竹内 廣行 氏)

国土交通省近畿地方整備局 副局長 長田 信 氏

9:50 基調講演

『アマモ場再生活動の持つ多様な意味』

NPO 法人海辺つくり研究会 理事・事務局長 木村 尚 氏

10:30 “はんなんの森里川海” きづこら

進行：大阪府立泉鳥取高等学校 教諭 河添 純子 氏

『海の恵みと営み』

尾崎漁業協同組合 理事 古川 博一 氏

西鳥取漁業協同組合 理事 名倉 勲 氏

下荘漁業協同組合 監事 桶谷 安治 氏

『『はんなん生き物まるごとマップ』づくり』

大阪府立泉鳥取高等学校フィールドワーク部 千地 芳樹さん、益田 えほさん

『大阪湾のアマモ場の現状』

NPO 法人大阪湾沿岸域環境創造研究センター 専務理事 岩井 克巳 氏

貝塚市立自然遊学館 研究員 山田 浩二 氏

『泉州の宝。豊富で良質の「和泉の水」を育みます』

和泉の水を育む会 会長 成子 和弘 氏

『阪南のものづくり・産業』

阪南市商工会 矢鳴 千草 氏

12:00～13:00 休憩

13:00 ウェルカムプレゼント

『子どもたちによる地域の魅力紹介』

阪南市立桃の木台小学校落語クラブの皆さん

阪南市立鳥取中学校ブラスバンド部・ダンス部の皆さん

14:15 “はんなんの森里川海” うごこら

進行：NPO 法人大阪湾沿岸域環境創造研究センター 専務理事 岩井 克巳 氏

『波有手のアマモ場再生』

阪南市立西鳥取小学校の皆さん

『小学生との絆はアマモ～アマモで繋がる人と海と人と人～』

関西大学北陽高等学校生徒会執行部の皆さん

『アマモ場づくりをはじめて』

阪南市立下荘小学校の皆さん

阪南市立舞小学校の皆さん

『はんなんの海』

阪南生きものマップ・プロジェクトチーム 三宅 壽一 氏

『はんなんの森里川海～「阪南セブンの海の森」活動』

一般財団法人セブン-イレブン記念財団 事務局次長 松井 敬司 氏

『アマモ場を増やす活動』

NPO 法人アマモ種子バンク 理事長 出口 一郎 氏

**15:40 パネルディスカッション “はんなんの森里川海” つなごら
～5つのヒント・50,000の約束～**

コーディネーター

『“はんなんの森里川海” [つなごら]』

NPO 法人海辺つくり研究会 理事 古川 恵太 氏

パネリスト

西鳥取漁業協同組合 理事 名倉 勲 氏

『ジョイントシンポジウムの報告』

大阪府立大学大学院人間社会システム科学研究科 教授 大塚 耕司 氏

『みなとまちヨコハマから広まったアマモ場の再生』

金沢八景－東京湾アマモ場再生会議 菅家 英朗 氏

『「全国アマモサミット in みやぎ」その後の活動』

松島湾アマモ場再生会議 副会長 伊藤 英明 氏

『～アマモサミット in くまもと・やつしろ その後～

熊本県沿岸域再生官民連携フォーラムの設置と展開』

熊本県沿岸域再生官民連携フォーラム 企画運営委員長、

NPO 法人：みらい・有明不知火 理事長、熊本大学名誉教授 滝川 清 氏

『みんなの備前、‘みんな で びぜん’』

日生町漁業協同組合 専務理事 天倉 辰己 氏

『全国アマモサミット開催を契機に』

志摩市産業振興部水産課長 小川 清和 氏

17:30 閉会

**18:20 歓迎レセプション～生産地と消費地をつなぐ～
会場：阪南市地域交流館講堂**

11月4日(日) 会場：阪南市立サラダホール大ホール

海辺の自然再生・高校生サミット

司会：大阪府立泉鳥取高等学校 道山 瑞穂 さん

9:00 開会

進行 NPO 法人共存の森ネットワーク 理事・事務局長 吉野 奈保子 氏
開会あいさつ 高校生サミット代表 木村 尚 氏
来賓あいさつ 一般財団法人セブン-イレブン記念財団 事務局長 星 劭 氏
マルハニチロ株式会社経営企画部
サステナビリティ推進グループ 課長代理 佐藤 寛之 氏

9:15 高校生発表①

『FRC（石炭灰資源）を用いた藻場造成に関する基礎研究』
山形県立加茂水産高等学校
『富山県立滑川高校海洋科の藻場再生活動について』
富山県立滑川高等学校
『アマモマーメイドプロジェクト』
福井県立若狭高等学校

9:45 質疑応答・コメント

10:00 高校生発表②

『相模湾東岸に位置する小田和湾周辺の環境調査と改善の取り組み』
神奈川県立海洋科学高等学校
『松名瀬を 学び、伝え、守る 2』
三重中学校・三重高等学校
『Marine Forest Project 2018～アマモが拓く新たな発明～』
京都府立海洋高等学校

10:30 質疑応答・コメント

10:45 高校生発表③

『アマモ水槽栽培実験～フルボ酸はアマモの生育にどう影響するのか～』

兵庫県立西宮今津高等学校

『アマモ場造成に関する諸問題の解明－種子採集に係る花枝・花穂・種子の生態－』

岡山県立備前緑陽高等学校

『海洋学習としてのアマモ場再生活動および人工干潟の生物多様性評価』

岡山学芸館高等学校

11:15 質疑応答・コメント

11:30 高校生発表④

『中学生の時にうまくできなかった魚料理』

柳井学園高等学校

『柳川掘割でニホンウナギを育てるための研究』

福岡県立伝習館高等学校

『森から海を見つめ、海から森を見つめる～林業科が取り組むアマモ場再生活動～』

熊本県立芦北高等学校

12:00 質疑応答・コメント

全国アマモサミット

12:15 閉会式

大会宣言

全国アマモサミット2018in 阪南実行委員長 奥野 英俊

次期開催地あいさつ

『塩竈・本気のおもてなし！歴史と海と食で体感』

全国アマモサミット2019in 塩竈実行委員長 桑原 茂 氏

大会旗引継ぎ

大会長・実行委員長／次期開催地の皆さん

次期開催地市長あいさつ

塩竈市長 佐藤 昭 氏

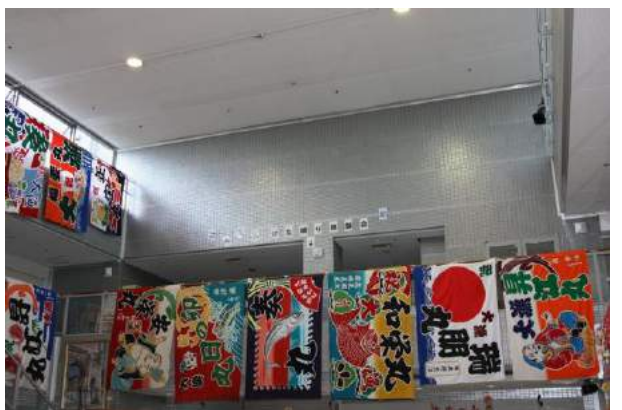
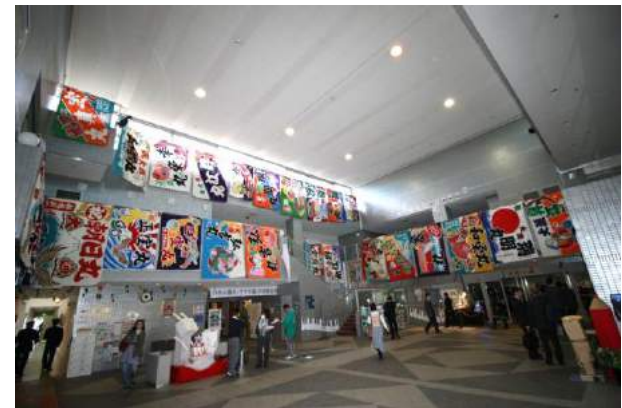
閉会宣言

全国アマモサミット2018in 阪南実行委員長 奥野 英俊

12:40 閉会

全国アマモサミット 2018in 阪南 大会会場
阪南市立サラダホール





11月2日(金) 第35回沿岸環境関連学会連絡協議会ジョイントシンポジウム
「大阪湾における藻場再生の意義と可能性」

会場：阪南市立サラダホール小ホール



11月3日(土) 全国アマモサミット

会場：阪南市立サラダホール大ホール



司会

関西テレビアナウンサー
谷元 星奈 さん



オープニングセレモニー



阪南市立東鳥取小学校
東鳥合唱団の皆さん



全国アマモサミット説明

全国アマモサミット 2018in 阪南
副実行委員長 岩井 克巳



開会式



開会宣言

全国アマモサミット 2018in 阪南
実行委員長 奥野 英俊



大会長あいさつ

阪南市長 水野 謙二



来賓紹介



来賓祝辞

大阪府副知事 竹内 廣行 氏



来賓祝辞

国土交通賞近畿地方整備局
副局長 長田 信 氏



海を守り隊 説明

関西テレビアナウンサー
谷元 星奈 さん



基調講演

アマモ場再生活動の持つ
多様な意味

NPO法人海辺つくり研究会
理事・事務局長 木村 尚 氏



基調講演

アマモ場再生活動の持つ
多様な意味

NPO法人海辺つくり研究会
理事・事務局長 木村 尚 氏



“はんなんの森里川海”
〔きづこら〕

進行：大阪府立泉鳥取高等学校
教諭 河添 純子 氏



海の恵みと営み

尾崎漁業協同組合
理事 古川 博一 氏
西鳥取漁業協同組合
理事 名倉 勲 氏
下荘漁業協同組合
監事 桶谷 安治 氏





『はんなん生き物
まるごとマップ』づくり



大阪府立泉鳥取高等学校
フィールドワーク部
千地 芳樹 さん
益田 えほ さん



大阪湾のアマモ場の現状



NPO法人大阪湾沿岸域
環境創造研究センター
専務理事 岩井 克巳 氏



大阪湾のアマモ場の現状



貝塚市立自然遊学館
研究員 山田 浩二 氏



泉州の宝。
豊かで良質の「和泉の水」を
育みます



和泉の水を育む会
会長 成子 和弘 氏



阪南のものづくり・産業



阪南市商工会
矢鳴 千草 氏



ウェルカムプレゼント



阪南市立桃の木台小学校
落語クラブの皆さん



ウェルカムプレゼント



阪南市立鳥取中学校
ブラスバンド部・
ダンス部の皆さん



“はんなんの森里川海” 〔うごこら〕

進行：NPO法人大阪湾沿岸域
環境創造研究センター
専務理事 岩井 克巳 氏



波有手のアマモ場再生

阪南市立西鳥取小学校の皆さん
関西大学北陽高等学校生徒会
執行部の皆さん





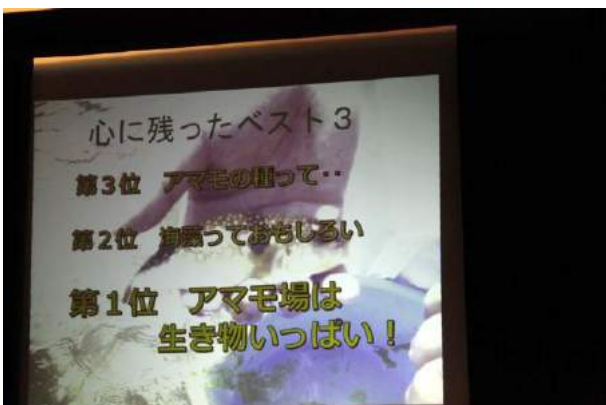
アマモ場づくりをはじめて



阪南市立下荘小学校の皆さん



アマモ場づくりをはじめて



阪南市立舞小学校の皆さん



はんなんの海



阪南生きものマップ・
プロジェクトチーム
三宅 壽一 氏



はんなんの森里川海～
「阪南セブンの海の森」活動



一般財団法人
セブン-イレブン記念財団
事務局次長 松井 敬司 氏



アマモ場を増やす活動



NPO法人アマモ種子バンク
理事長 出口 一郎 氏





パネルディスカッション
“はんなんの森里川海”
〔うごこら〕
～5つのヒント・50,000の約束～



コーディネーター
NPO法人海辺つくり研究会
理事 古川 恵太 氏



パネリスト
西鳥取漁業協同組合
理事 名倉 勲 氏



パネリスト

大阪府立大学大学院
人間社会システム科学研究科
教授 大塚 耕司 氏



パネリスト

金沢八景一
東京湾アマモ場再生会議
菅家 英朗 氏



パネリスト

松島湾アマモ場再生会議
副会長 伊藤 英明 氏



パネリスト

熊本県沿岸域再生官民連携
フォーラム企画運営委員長、
NPO法人みらい・不知火理事長、
熊本大学名誉教授
滝川 清 氏



パネリスト

日生漁業協同組合
専務理事 天倉 辰己 氏



パネリスト

志摩市産業振興部
水産課長 小川 清和 氏



ジョイントシンポジウムの報告

大阪府立大学大学院
人間社会システム科学研究科
教授 大塚 耕司 氏



みなとまちヨコハマから広まった アマモ場の再生

金沢八景一
東京湾アマモ場再生会議
菅家 英朗 氏



「全国アマモサミット 2013inみやぎ」その後の活動

松島湾アマモ場再生会議
副会長 伊藤 英明 氏



～アマモサミット inくまもと・やつしろ その後～

熊本県沿岸域再生官民連携
フォーラム企画運営委員長、
NPO法人みらい・不知火理事長、
熊本大学名誉教授
滝川 清 氏



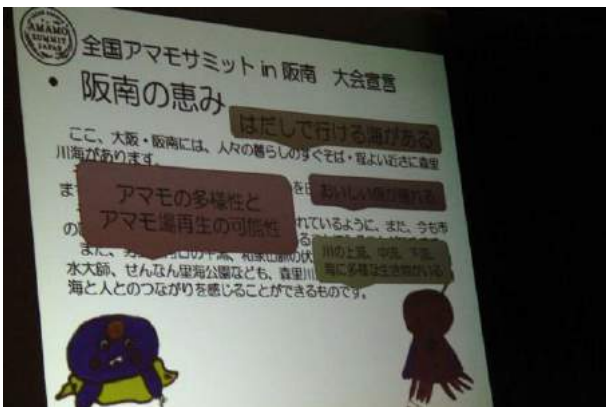
みんなの備前、'みんな で びぜん'

日生漁業協同組合
専務理事 天倉 辰己 氏

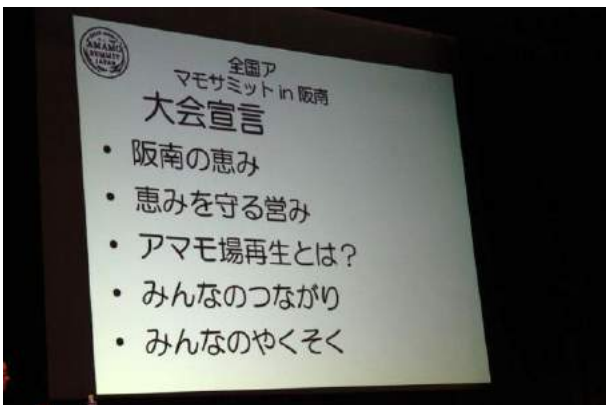


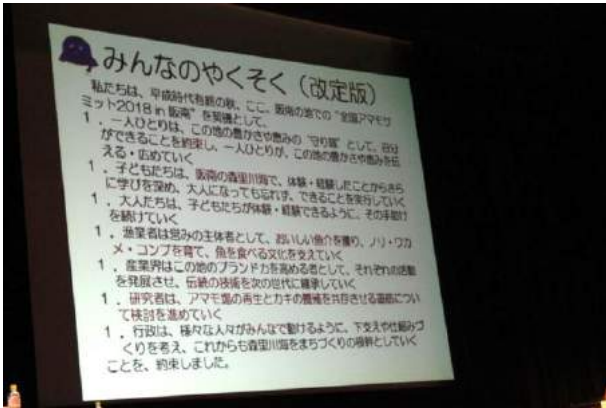
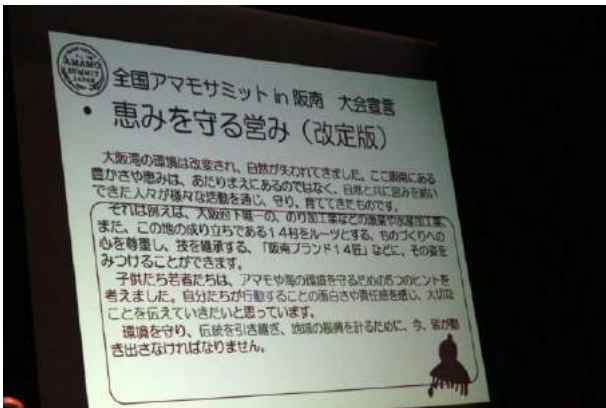
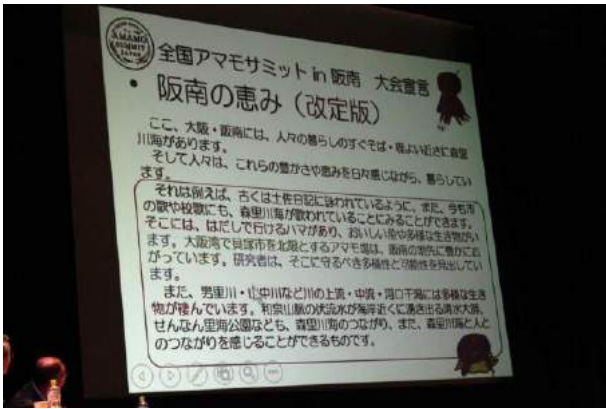
全国アマモサミット開催を契機に

志摩市産業振興部
水産課長 小川 清和 氏



パネルディスカッション





パネルディスカッション

11月3日(土) 歓迎レセプション

会場：阪南市地域交流館講堂



11月4日(日) 海辺の自然再生・高校生サミット

会場：阪南市立サラダホール大ホール

参加校

山形県立加茂水産高等学校、富山県立滑川高等学校、福井県立若狭高等学校、
神奈川県立海洋科学高等学校、三重中学校・三重高等学校、京都府立海洋高等学校、
兵庫県立西宮今津高等学校、岡山県立備前緑陽高等学校、岡山学芸館高等学校、
柳井学園高等学校、福岡県立伝習館高等学校、熊本県立芦北高等学校



司会

大阪府立泉鳥取高等学校
道山 瑞穂 さん



海辺の自然再生・高校生サミット
進行

NPO法人共存の森ネットワーク
理事・事務局長 吉野 奈保子 氏



開会あいさつ

NPO法人海辺つくり研究会
理事・事務局長 木村 尚 氏



来賓あいさつ

一般財団法人
セブン-イレブン記念財団
事務局長 星 劭 氏



来賓あいさつ

マルハニチロ株式会社
経営企画部
サステナビリティ推進グループ
課長代理 佐藤 寛之 氏



FRC(石炭灰資源)を用いた
藻場造成に関する基礎研究



山形県立加茂水産高等学校



富山県立滑川高校海洋科の
藻場再生活動について



富山県立滑川高等学校



アマモマーメイドプロジェクト



福井県立若狭高等学校



質疑応答・コメント





相模湾東岸に位置する
小田和湾周辺の環境調査と
改善の取り組み



神奈川県立海洋科学高等学校



松名瀬を 学び、伝え、守る 2



三重中学校・三重高等学校



Marine Forest
Project 2018
～アマモが拓く新たな発明～



京都府立海洋高等学校



質疑応答・コメント



アマモ水槽栽培実験
～フルボ酸はアマモの生育に
どう影響するのか～



兵庫県立西宮今津高等学校



アマモ場造成に関する
諸問題の解明
—種子採集に関する
花枝・花穂・種子の生態—



岡山県立備前緑陽高等学校



海洋学習としての
アマモ場再生活動および
人工干潟の生物多様性評価



岡山学芸館高等学校



質疑応答・コメント



中学生の時に
うまくできなかった魚料理



柳井学園高等学校



柳川掘割で
ニホンウナギを育てるための研究



福岡県立伝習館高等学校



森から海を見つめ、
海から森を見つめる
～林業科が取り組む
アマモ場再生活動～



熊本県立芦北高等学校



質疑応答・コメント

11月4日(日) 全国アマモサミット

会場：阪南市立サラダホール大ホール



閉会式司会

大阪府立泉鳥取高等学校
道山 瑞穂 さん



大会宣言

全国アマモサミット 2018in 阪南
実行委員長 奥野 英俊





次期開催地あいさつ

塩竈・本気のおもてなし！
歴史と海と食で体感

全国アマモサミット 2019in 塩竈
実行委員長 桑原 茂 氏





大会旗引継ぎ

全国アマモサミット 2018in 阪南
大会長・実行委員長
&
次期開催地の皆さん





次期開催地
市長あいさつ

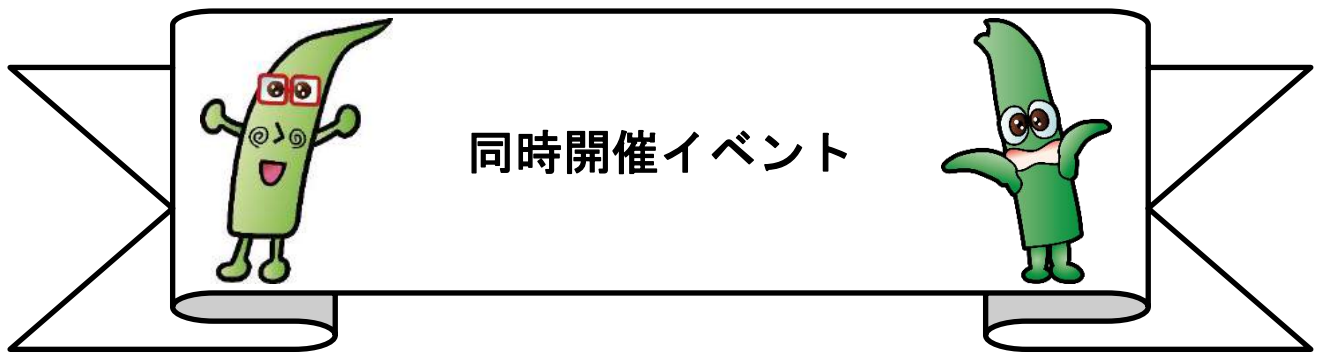
塩竈市長 佐藤 昭 氏



閉会宣言

全国アマモサミット 2018in 阪南
実行委員長 奥野 英俊





ジョイント
イベント

第18回はんなん産業フェア〈秋の陣〉×阪南うまいもん市
～みんなでいこら阪南へ！～

会 場：阪南市商工会館及び阪南市役所周辺
日 時：平成30年11月4日（日）9:30～15:00

パネル展示
VR体験

海辺の自然再生・高校生サミット参加校、実行委員会、関連
団体、協賛団体によるパネル展示、アマモ場VR体験

会 場：阪南市立サラダホール大ホールホワイエ・小ホール
月 日：平成30年11月3日（土）～11月4日（日）

水槽展示

「見て知ろう！はんなんの生き物」

会 場：阪南市立サラダホール内
月 日：平成30年10月28日（日）～11月4日（日）

エクス
カーション

阪南・尾崎の街並み見学

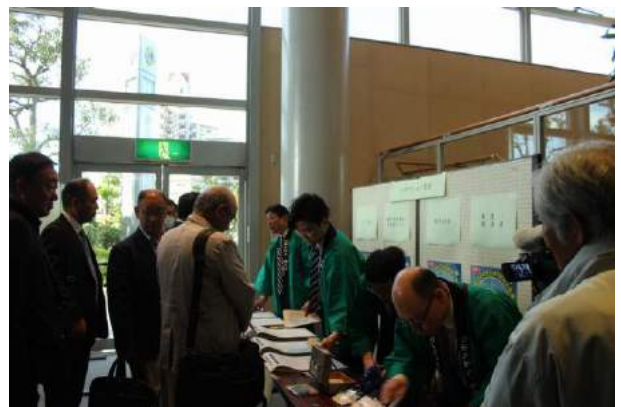
コース：阪南市立文化センター～尾崎港～成子家住宅～
西本願寺尾崎別院～清水大師～阪南市立文化センター
月 日：平成30年11月2日（金）
参加者：海辺の自然再生・高校生サミット参加校

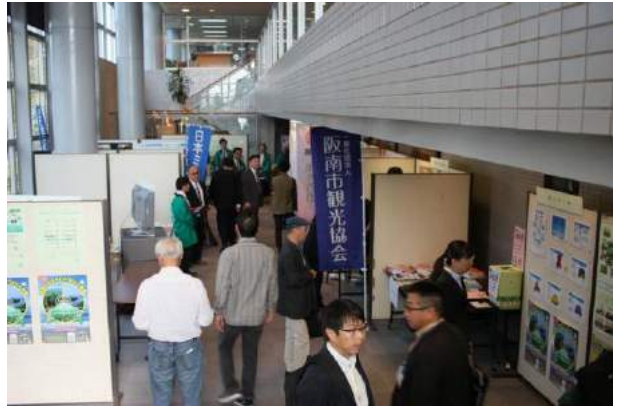
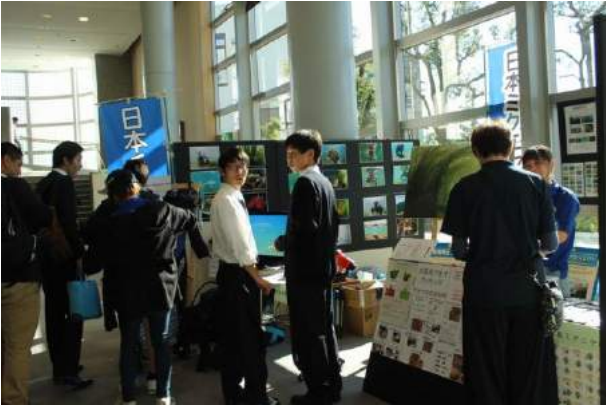
関連図書
企画展示

「近くの海を知ろう」

会 場：阪南市立図書館
月 日：平成30年10月15日（月）～11月4日（日）

大ホールホワイエ

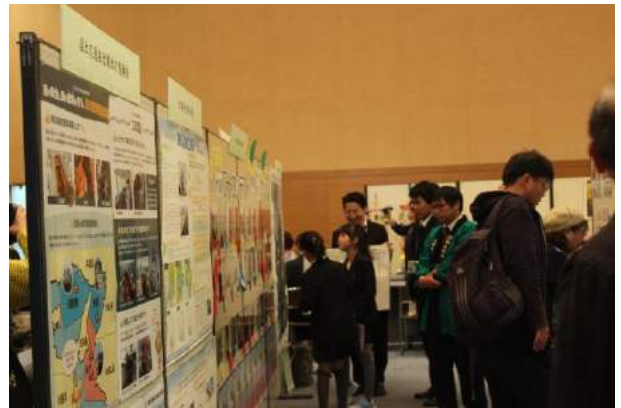




パネル展示、VR体験

会場：阪南市立サラダホール小ホール





水槽展示 「見て知ろう！はんなんの生き物」

会場：阪南市立サラダホール内



第18回はんなん産業フェア〈秋の陣〉×阪南うまいもん市
会場：阪南市商工会館及び阪南市役所周辺

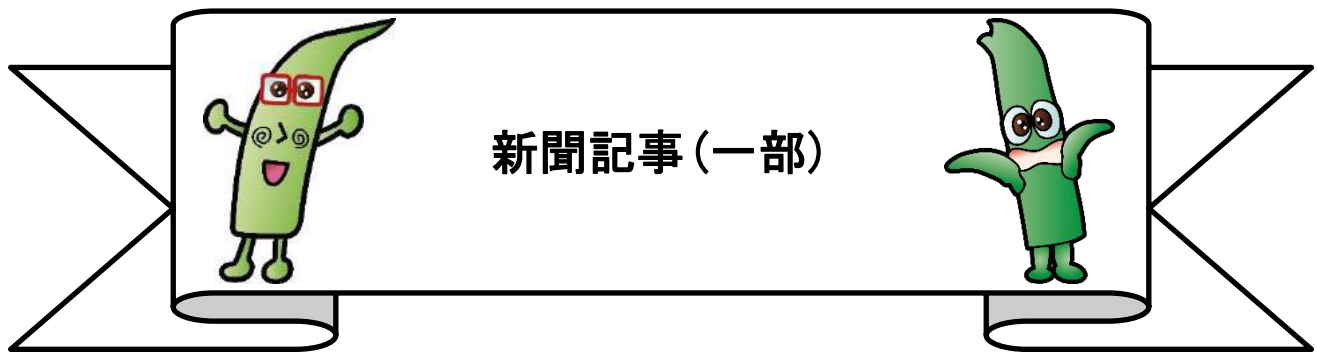


阪南・尾崎の街並み見学

月 日：平成30年11月2日（金）

参加者：海辺の自然再生・高校生サミット参加校





大阪)アマモで海再生、阪南でサミット 11月2～4日

加戸靖史 2018年10月31日03時00分



大阪湾では希少なアマモの群生地＝2013年5月2日、大阪府阪南市沿岸、佐藤慈子撮影

海の再生活動に取り組む人たちが集う全国アマモサミットが11月2～4日、大阪府阪南市の市立文化センターで開かれる。このうち3、4日は、市民や子どもたちの活動報告が中心だ。府内で7年ぶり2度目の開催を誘致した阪南市は「身近な海の魅力を知ってほしい」と来場を呼びかける。

アマモは浅瀬に群生する海草。戦後の開発で多くのアマモ場が消失したが、近年はアマモが持つ水質浄化機能が注目され、各地で再生活動が展開されている。サミットは関係者の意見交換の場として2008年から毎年開催されてきた。

から毎年開催されてきた。

阪南市沖には大阪湾では希少なアマモ場がある。3日午後は、保全活動に取り組んできた市立西鳥取小学校と関西大北陽高校が劇形式でこれまでの取り組みを報告するほか、過去のサミット開催地の代表者らによるパネルディスカッションがあり、大会宣言をまとめる。

4日午前は「高校生サミット」で、山形、福井、神奈川、熊本などの12校がそれぞれの海の現状や研究成果を発表する。この日は会場周辺で「はんなん産業フェア」が開かれ、地元産の野菜や鮮魚の販売、飲食コーナーが設けられる。

入場無料。2日の専門家シンポジウムへの参加や問い合わせは市農林水産課（072・471・5678）へ。（加戸靖史）

平成30年10月31日（水）朝日新聞

大阪府阪南市で「全国アマモサミット2018」が開幕

2018.11.4 07:53 産経WEST | ライフ

海草「アマモ」の再生をキーワードに、研究者や市民が海の環境改善を目指す「全国アマモサミット2018 in 阪南」が3日、大阪府阪南市立文化センターで開幕した。全国から約800人が集まり、海の自然再生と保全について活発に議論を深めた。4日まで。

アマモは海中に生える種子植物で、密生地は魚介類のすみかとなる。近年は水質浄化作用が注目され、各地で保全活動が進められている。サミットは平成20年から毎年開かれ、府内では23年の大阪市での大会以来2度目。大阪湾では希少なアマモ場を有し、多くの市民が再生活動に携わる阪南市が名乗りを上げた。

研究者に加え、市民や高校生も活発に意見を交わすのがサミットの特色だ。阪南大会では「ここにある魚庭（なにわ）の海きづこら・うごこら・つなごら」を大会テーマに掲げた。

初日は開会式が催され、大会長を務める水野謙二・阪南市長が「先人たちから引き継いだ大切な海を守るまちづくりのスタートとしたい」とあいさつ。NPO海辺づくり研究会の木村尚理事が基調講演で東京湾での取り組みを紹介し、「アマモを通じた海の再生を図りながら、町の発展につなげるのが重要だ」と述べた。この後、地元漁協や市民団体などが大阪湾での取り組みを報告、「〃はんなんの森里川海”つなごら～5つのヒント・5万の約束」をテーマにパネルディスカッションも行われた。

4日は全国の高校12校が研究成果を発表する「高校生サミット」の後、閉会式で大会宣言を採択し、次期開催地の宮城県塩竈（しおがま）市への大会旗引き継ぎもある。このほか、サミット会場周辺では「第18回はんなん産業フェア〈秋の陣〉×阪南うまいもん市」（午前9時半～午後3時）も同時開催される。入場無料。



開幕した「全国アマモサミット2018 in 阪南」。NPO海辺づくり研究会の木村尚理事が基調講演した＝大阪府阪南市立文化センター（谷田智恒撮影）

©2018 The Sankei Shimbun All rights reserved.

平成30年11月4日（日）産経新聞

大阪)アマモサミット閉幕 高校生の発表も

加戸靖史 2018年11月5日03時00分



高校生サミットでは、発表した高校生たちが会場からの質問に答えた。2018年11月4日、大阪府阪南市尾崎町、加戸靖史撮影

大阪府阪南市で開かれていた全国アマモサミットは4日、海草アマモが育つ大阪湾の「豊かさや恵みを伝える・広めていく」とする大会宣言を発表し、閉幕した。市によると、3日間の参加者は延べ約1450人だった。来年は宮城県塩釜市で開催される。

この日は「高校生サミット」があり、海の再生活動を進める全国12校の生徒たちが取り組みを発表した。

富山県滑川（なめりかわ）市で海草アマモの育成に取り組む県立滑川高の生徒4人は、海中のごみがアマモの生育を妨げていると指摘。清掃活動も続け、「豊かな海を復活させたい」と決意を語った。

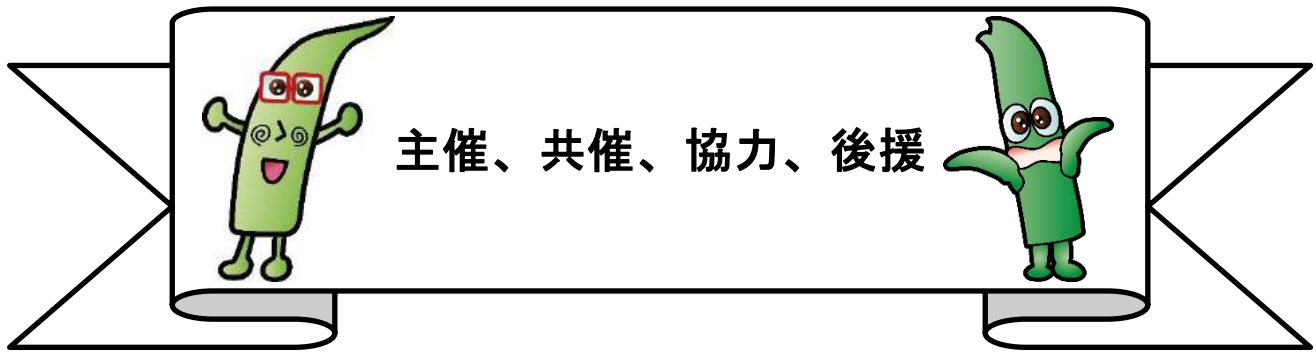
京都府立海洋高校の生徒2人は、アマモが夏に枯れる理由を探るため、海中で常時観測できる機器を開発していると紹介。「実際に設置し、枯死の原因を突き止めたい」と述べた。

アマモサミット実行委員会副委員長を務めた岩井克巳（かつみ）さん（53）は「今回のサミットをこれで終わらせず、海の環境再生や観光資源としての活用など、先につながる動きにしていきたい」と話した。（加戸靖史）

平成30年11月5日（月）朝日新聞

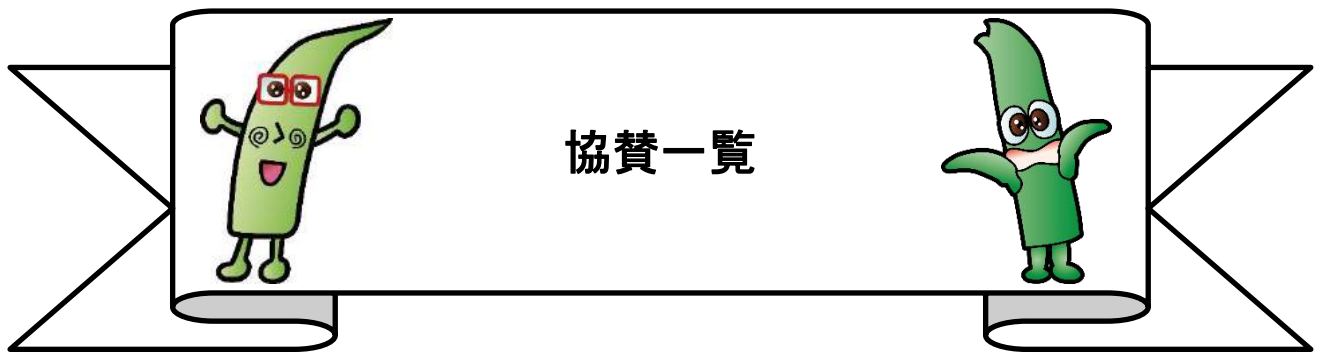
このほか、関西テレビ、J:COMりんくうなどで
放映されるなど、
各種メディアでアマモサミットの様子が、
取り上げられました





- 主 催** 全国アマモサミット 2018in 阪南実行委員会
 大会長：水野謙二（阪南市長）
 実行委員長：奥野英俊（阪南市商工会会長）
 尾崎漁業協同組合、西鳥取漁業協同組合、下荘漁業協同組合、
 阪南市商工会、一般社団法人阪南市観光協会、大阪泉州農業協同組合、
 一般社団法人大阪湾環境再生研究・国際人材育成コンソーシアム・コア、
 地方独立行政法人大阪府立環境農林水産総合研究所、
 大阪府立大学大学院、大阪府立泉鳥取高等学校、関西大学北陽高等学校、
 株式会社海遊館、南海電気鉄道株式会社、
 大阪湾見守りネット、NPO法人環境教育技術振興会、
 NPO法人大阪湾沿岸域環境創造研究センター、
 一般財団法人セブン-イレブン記念財団、
 NPO法人海辺づくり研究会、NPO法人共存の森ネットワーク、
 NPO法人アマモ種子バンク、国土交通省近畿地方整備局、
 大阪湾環境保全協議会、大阪府、せんなん里海公園管理事務所、阪南市
- 共 催** 沿岸環境関連学会連絡協議会
 日本水産学会、土木学会海岸工学委員会、
 沿岸域研究連携推進小委員会、日本海洋学会海洋環境問題委員会、
 日本水産工学会物質循環研究会、土木学会水工学委員会、
 日本船舶海洋工学会海洋環境研究会、応用生態工学会、
 水産海洋学会、日本海洋学会沿岸海洋研究会、
 日本沿岸域学会、日本ベントス学会、日本プランクトン学会
- 協 力** NPO法人ヒトトヒト、自然と本の会、
 近畿コンピュータ電子専門学校、大阪ECO動物海洋専門学校
- 後 援** 環境省、水産庁、全国漁業協同組合連合会、大阪府漁業協同組合連合会、
 堺市、高石市、泉大津市、和泉市、忠岡町、岸和田市、
 貝塚市、泉佐野市、熊取町、田尻町、泉南市、岬町

全国アマモサミット 2018in 阪南、ジョイントシンポジウムは、
 2018年度「積水ハウスマッチングプログラム」助成、大阪府環境保全活動補助金、大阪府漁業振興
 基金の助成を受けて実施しています。
 また、JST-RISTEX「持続可能な多世代共創社会のデザイン」研究開発領域の研究成果の一部です。



協賛一覧

一般財団法人セブン-イレブン記念財団

マルハニチロ株式会社

日本ミクニヤ株式会社

関西エアポート株式会社

南海電気鉄道株式会社

株式会社田中

東洋建設株式会社大阪本店

五洋建設株式会社大阪支店

株式会社総合水研究所

株式会社ジェイコムウエストりんくう局

株式会社日本港湾コンサルタント

プロロジス

鴻池運輸株式会社

大阪府港湾協会

浪花酒造有限会社

いであ株式会社大阪支社

イズフク工業株式会社

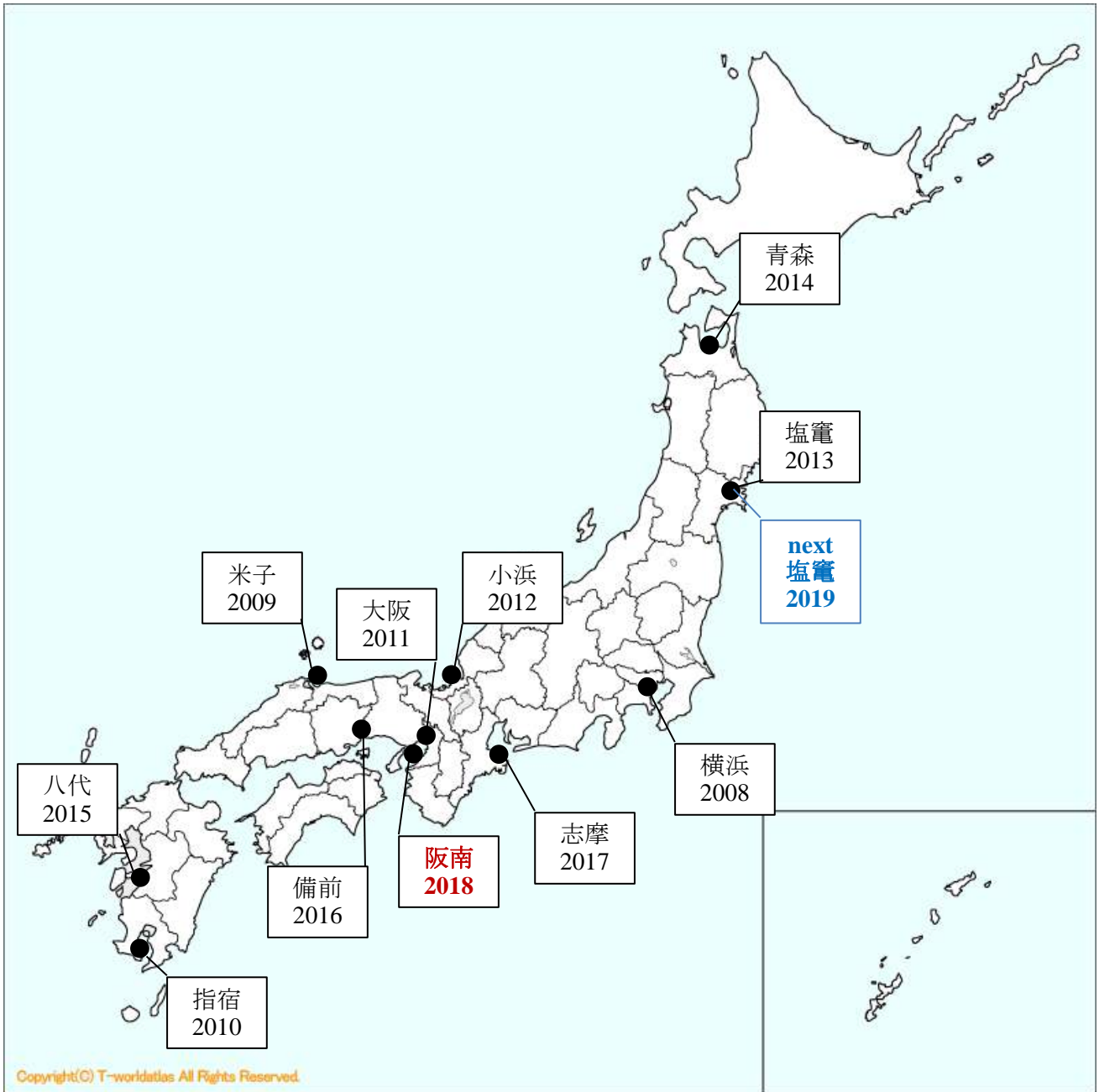
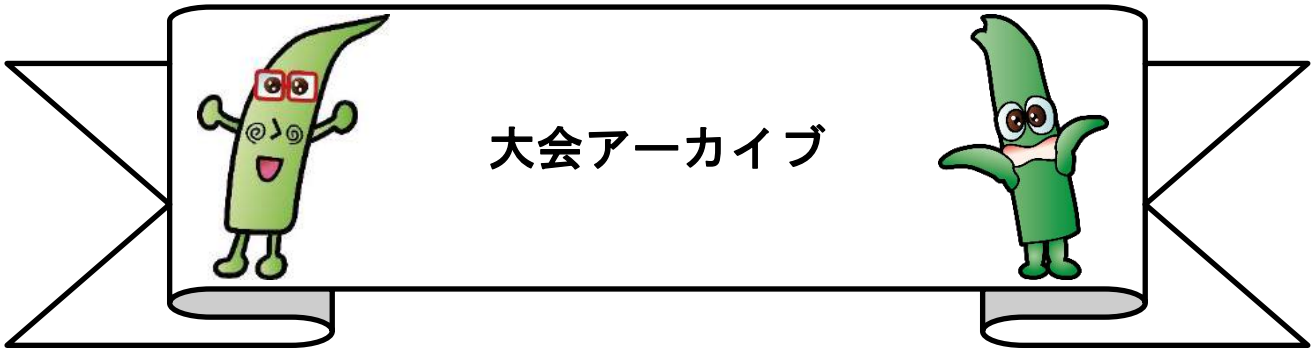
水島合金鉄株式会社

日新製鋼株式会社

日本郵便株式会社阪南尾崎郵便局

NPO法人ホテル燦燦会

ガバメントクラウドファンディング™ (GCF™) にご協力いただいたみなさん



海を守り隊!



海を守り隊!

隊員1号
ゴミひろいくん

8本の手で、たくさんゴミを拾うよ。
ゴミを捨てている人がいたら、飛んで行ってゴミを拾うよ。



海を守り隊!

隊員2号
水をとめるくん

水道の水が出ていたら、見逃さずに止めるよ。



海を守り隊!

隊員5号
よびかけるくん

「海を守り隊」の一員を増やすために、よびかけます!!



海を守り隊!

隊員3号
むだづかいしないくん

必要な分だけ使うよ。
シャンプーは、ポンプを1回しか押さないよ。



海を守り隊!

隊員4号
のこさないくん

何でも残さず食べるよ。
最後まで飲むよ。



隊員になって
くださる方を募集
しています!

わたしは、海を守り隊の一員になって、

ます!

名前

()



平成 30(2018)年 12 月発行
全国アマモサミット 2018in 阪南実行委員会
〒599-0292 大阪府阪南市尾崎町 35 番地の 1
tel : 072-471-5678 fax : 072-471-5781

